



理由を明確にし、 内容をまとめて書く力

**この力を
付けたい！**

三 正答例

(なぜなら、)公しゅう電話は、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされていたり、きん急のときにも使うことができたりするからです。(2文に分けてあってもよい。)

特徴的な誤答

「地域のほとんどの人が、公しゅう電話は必要だと答えているし、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされているからです。」

ここがつまずき！ (1)の内容だけでまとめている。〈解答類型4〉

条件「(1)と(2)の両方から取り上げる」に合せていない。

**誤答からわかる
児童のつまずき**

日々の学習の改善・充実



5学年の学習で...

〔第5学年及び第6学年〕B書くこと

ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。
(学習指導要領)

・第5学年「グラフや表を用いて書こう」・

書く 必然性

総合的な学習の時間での発表会に向け、集めた資料をまとめて文章にする。

まずは、自分の「問い」を解決するために選んだ資料から、分かったことを書き出す場面を設定しましょう。

【資料などから分かったこと】

- ・道はばが4m。
- ・歩道がない。
- ・(インタビューから)広い歩道なら、みんな安心して歩くことができる。

次に、そこからどんなことを考えたのかを書き出す場面を設定しましょう。

【意見や考え】

- ・道はばがせまい。
- ・歩道のある道路にしてほしい。

児童が自分の考えを文章や図に表す場面をつくっていますか



友達の意見や考えを基に自分の考えを振り返る場面をつくっていますか



自分の考えが伝わる文章になっているか、読み合いましょう。分かったことが自分の考えの裏付けになっていますか？

もっと安全な道路にしてほしいです。なぜなら、この道は、はばが4mで、せまいからです。



この文章だと、道はばがせまいという理由だけなので、説得力が弱くないかな？分かったことは、もっと他にもあったよね。



そうだね。それでは、「歩道があれば、だれもが安心して歩くことができます。」を加えてみようかな。

理由付けが明確であるかを 振り返る(推敲する)場をつくろう！



**教師が
意識する
こと**

1

高橋さんの学級では、生活の中で気になったことを調べ、友達に報告することにしました。高橋さんは、公衆電話について調べています。次は、高橋さんが書いている【報告する文章】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。



公衆電話について

高橋 めぐみ

1 はじめに

先日外出したときに、家に電話をかけようと思うと近くの店に行くと、あったはずの公衆電話がなくなって、こまづいてしまいました。また、よく行く公園の公衆電話も、いつの間にかなくなっていました。わたしは、公衆電話の数が減っているのではないかと思い、町の公衆電話の数を調べてみることにしました。それをまとめてものが【資料1】です。平成二十年度から二十九年までの十年間で、約半分にまで減っていることが分かりました。そこで、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうのかどうか調べてみることにしました。

2 調査の内容と結果

(1) 公衆電話はどのようなときに必要なのか 多くの人々が知りたい電話を持つ中で、公衆電話が必要とされているのかどうかを調べてみることにしました。そこで、地いきの人三十人を調査のアたしとして、公衆電話が必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。その理由をまとめたものが【資料2】です。「けいたい電話をわすれたときに必要」「けいたい電話の電池が切れたときに必要」などの回答がありました。

このことから、公衆電話は、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされているということが分かりました。

(2) 公衆電話にはどのような使い方や持ちようがあるのか

公衆電話について書かれた資料を調べてみると、公衆電話には、次のような使い方や持ちようがありました。

- ・ 警察署(110番)や消防署(119番)には、硬貨やテレホンカードがなくても通報することができます。
 - ・ 停電のときでも、硬貨を使っても通話することができます。
 - ・ 電話が混み合っているときでも、優先的につながりやすい。
- このように、公衆電話は、きん息のときにも使うことができます。ということが分かりました。

(3) 公衆電話はどのような場所にあるのか

公衆電話が必要なときに使うことができるようにするためには、どのような場所に設置されているのかを前もって知っておくことが大切だと思ったので、わたしは、公衆電話の設置場所を確かめてみることにしました。実際に町を歩いてまとめたものが【資料3】です。

3

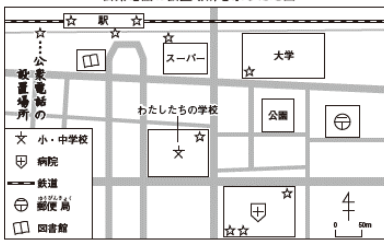
調査の結果をもとに考えたこと

調査の結果から、公衆電話は、主に病院や学校、駅などの多くの人が集まる場所にあるということが分かりました。

また、公衆電話を使いたいときには、多くの人が集まる場所へ行けば見つけやすいのではないかとことも考えました。

今回の調査を通して知ったことを、学級の友達にイカからず多くの友達に伝え、公衆電話について、ウかんしんをもつてもらいたいと思います。

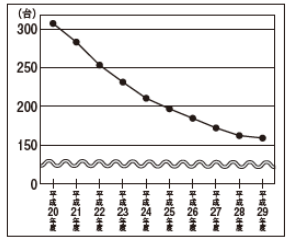
【資料3】 公衆電話の設置場所を示した地図



【資料2】 公衆電話が必要ない理由のまとめ(複数回答)

けいたい電話をわすれたときに必要	22人
けいたい電話の電池が切れたときに必要	12人
けいたい電話の使用が禁止されている場所にいるときに必要	5人
けいたい電話の電波がとどかない場所にいるときに必要	4人
けいたい電話や家の電話がつながらにくいうきに必要	3人
その他	5人

【資料1】 公衆電話設置台数の移り変わり



三 高橋さんは、「3 調査の結果をもとに考えたこと」の [] に「2 調査の内容と結果」の (1)と (2) で分かったことをまとめて書いています。 [] に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

(条件)

- 「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)の両方から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 【報告する文章】にふさわしい表現で書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、四十文字以上、七十文字以内にとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

※左の縦書き用紙は下書き用の紙で、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
 ※の印から書きましょう。どちらの行も変えないで、続けて書きましょう。

調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうためではないかと考えました。

なぜなら、

70字

四 高橋さんは、【報告する文章】を書き終え、読み返しています。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

- (2) 高橋さんは、読み手に伝わりやすくするために、「報告する文章」の [] の文を二つの文に分けて書き直すことにしました。文と文をつなぐ言葉には「そこで」を使います。書き直した一文目の終わりの五文字と、二文目の「そこで」に続く五文字を書きましょう。なお、読点(、)も字数にふくみます。

公衆電話が必要なときに使うことができるようにするためには、どのような場所に設置されているのかを前もって知っておくことが大切だと思ったので、わたしは、公衆電話の設置場所を確かめてみることにしました。

そこで、

※解答は、解答用紙に書きましょう。